

「つなげる・つながる」札幌市青少年科学館の取り組み

"Make a connection" Several trials at Sapporo Science Center for establishing links

札幌市青少年科学館 垂石 寛史

Sapporo Science Center

E-mail:n.taruishi@ssc.slp.or.jp

【はじめに】「実は星が好き」「子どもの頃は科学雑誌を毎号買っていた」という人や、「科学館って面白いよね」「プラネタリウムが大好き」という人たちは案外に多い。本発表は、科学館の学校教育や高等教育機関との連携の取り組みと、科学との関係性が薄い分野で活躍している人たちと連携しながら、科学教育に関わる人の輪を広げる地域との連携の取り組みについて報告する。

【学校教育等との連携】科学館における学校教育支援は、小中学校の理科授業支援や職業体験などが中心となる、当館ではスーパーサイエンスハイスクール指定校（札幌啓成高校）との連携や、千歳科学技術大学、北海道科学大学、札幌市立大学などとの高等教育機関と連携し、学生が講師を務める科学講座や展示、院生の研究成果の活用場として科学館を活用していただいている。また、札幌市の新採用の小学校教員の理科実験の基礎研修を行っており、このような取り組みを積み重ねながら、科学教育の担い手を増やしていきたい。

【地域との連携】科学館の大きな役割の1つに、難しい（と思われるがちな）科学の原理をできるだけ平易かつ正確に伝えるということがある。これには科学知識に加え、国語力やデザイン・表現力など「文系エッセンス」が必要になる。そこで、当館では「なぜ、どうしてだろう」と科学への好奇心を高める仕掛けとしてキャラクターの活用が有効だと考えた。絵本のキャラクターが子どもたちの科学的な興味関心を高め、その原理をできるだけわかりやすく伝える橋渡し役になってもらっている例を報告する。物理実験をテーマにした特別展では、キャラクターが来場者に実験結果を問いかけることで、子どもたちが主体的に考え、予測して実験に臨む姿が多くみられた。また、デザインを担当する絵本作家に物理現象を繰り返し説明していく過程で職員も伝えるべき説明が洗練され、特別展の説明パネルがわかりやすいものになった。そのほかにも、プラネタリウムでは絵本を題材にした番組づくりを行っている。北海道日本ハムファイターズと連携したプロジェクト（星をテーマにした選手会作の絵本をベースにプラネタリウム番組を制作する取り組み）では、番組制作のみならず、お互いに入場チケットの割引やプレゼントのキャンペーンを行うなど、多様な連携を進めている。

いずれも一見異なる分野ではあるが、何かしらの共通項をきっかけに、連携が生まれている。今後もさまざまな人たちと連携を積み重ね、しなやかなネットワークを構築し、多彩なアプローチから科学教育の普及啓発に努めていきたい。

